令和5年度 岡山県立邑久高等学校 評価書　～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
2 コミュニケーション能力の向上・・・地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価 達成状況（中間）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	自己評価 達成状況（最終）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価 評価の妥当性	学校関係者評価 改善方策の適切さ
1	教務課	わかる授業の実現に向けて、授業規律の徹底を図る。	・「授業規律のスタンダード」の教室掲示、教科担当者、年次教員による声掛けで生徒の意識高揚を図る。	①生徒授業アンケートにおける授業規律のスタンダードの項目について肯定的な意見が90%以上。 ②学校自己評価アンケート（教員）の「情報の共有と業務の効率化」の肯定的な意見が80%以上。（昨年71%）	①5月の生徒授業アンケートでは授業規律のスタンダード3項目いずれも肯定的な意見が90%をこえた。11月でも維持できるかが課題である。 ②学校自己評価アンケートは11月実施予定。	B	①5月、11月の生徒授業アンケートでは授業規律のスタンダード3項目いずれも肯定的な意見が90%をこえた。 ②学校自己評価アンケート（教員）における「情報の共有業務の効率化」では95%近くが肯定的な意見であった。その他にはサーバーを自動バックアップ化し、パブリックフォルダは来年度よりフォルダ構成を整理するように準備している。	A	①年間を通して授業規律のスタンダード3つの項目について肯定的な意見が目標値を達成できた。しかしながら教員側からみるとできていない部分もまだあり、新年度にもう1ランク上の目標を設定する必要があるかもしれない。 ②アンケートの結果は目標値を大幅にこえることができた。理由はデジタル採点システム百問線乱の効果を実感した教員が多かったためだと考えられる。	妥当	適切
		教材研究等の時間をうみだすため、業務の効率化を図る。	・自動採点システム「百問線乱」を導入し有用さを検証する。 ・教科内で、作成した教材等を共有し、改善を図る。	①学校自己評価アンケート（教員）の「情報の共有と業務の効率化」の肯定的な意見が80%以上。（昨年71%） ②学校自己評価アンケート（生徒）の「教員はICT活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的な意見が90%以上。（昨年92%）	①②4月よりデジタル採点システム「百問線乱」を導入。第1回定期考査後にとったアンケートでは11名の教員が利用し、そのうち80%以上が業務が効率化したと回答している。第2回定期考査ではさらに多くの教員が利用した。学校自己評価アンケートは11月実施予定。	B	①デジタル採点システムは教員にうまく浸透し、第3回定期考査では6割の科目がデジタル採点されており好評である。 ②学校自己評価アンケート（生徒）の「教員はクロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的な意見は95.8%であり達成基準を大きく上回った。	A	①デジタル採点システムについては上述のとおりである。 ②教員のICTの活用についても、聞き方を具体的にすることで肯定的な意見が伸びた。すべての教員が日常的にクロムブックやプロジェクターを活用した授業をする状態に近づきつつある。	妥当	適切
	学力向上委員会	生徒の学習習慣の確立を目指し、授業や課題の工夫をする。 新学習指導要領に対応した授業を研究し授業改善につなげる。	・年2回（5月、11月）の生徒授業アンケートを実施し、生徒の行動変容を調べる。 ・年2回（6月、11月）授業公開週間を実施し、互いに授業参観・意見交換を行い、職員会議で報告・共有を図る。	①2回目の授業アンケートで生徒の学習について改善が見られた授業が80%以上。（昨年度78%） ②年間の授業見学の報告数を70件以上。（昨年32件） ③授業アンケートにおける授業外学習時間の項目の肯定的な意見が80%以上。	①5月に生徒授業アンケートを実施した。それぞれの担当教科でアンケートを実施し、11月までの目標を設定した。11月の結果からどのような変容があったかを確認する。 ②6月に授業公開週間を実施。おすすめ授業の一覧を掲載した「授業公開通信」を2回発行した。授業見学の報告は11件であった。 ③学校自己評価アンケートは11月実施予定。	C	①11月の授業アンケートの結果から授業改善が見られた教員の割合は93%（分析中を含めず）であった。 ②11月に授業公開週間を実施。授業見学のポイントを生徒の様子に絞っておこなったところ、6月と合わせて31件の報告があった。それに加え今年度は邑久中学校へ2回、他の高校への授業見学も行った。 ③学校自己評価アンケート（生徒）における「定期考査や検定に向けて勉強している」の肯定的な意見は82%であり昨年より飛躍的に上昇した。	B	①次年度も生徒の意見も取り入れながら授業改善に取り組みたい。 ②年間の授業見学の数は昨年並みであった。しかし昨年より他校や中学校への授業見学が活発になった点は評価できる。 ③昨年までは家庭学習に限定していた部分を、定期考査や検定に向けての学習にしたことが原因だと考えられる。定期考査前の学習会や検定前の補習などの取り組みを継続していきたい。	妥当	適切
	1年次	進路目標に向けた学習習慣の確立を目指す。	・1人1台端末を活用した授業改善を推進する。 ・生徒が主体的に取り組む授業を目指す。（生徒が「わかる授業」の実践） ・授業のUDを意識し、生徒に見通しを持たせた授業展開をする。 ・年間を通して、授業規律のスタンダード、課題提出を徹底する。	①学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答（1年次）が90%以上。（昨年度94.9%） ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答（1年次）が90%以上で推移する。（昨年度94.8%） 「理想の実現」の肯定的回答（1年次）が85%以上で推移する。（昨年度85.4%）	①学校自己評価アンケートは11月実施予定 ②「自主自律」は94.6%で、「ほとんどできている」の回答は、58.7%となっている。これからも自らの行動に責任を持って行動できるように指導していきたい。 「理想の実現」は88.1%で、「ほとんどできている」の回答は44.3%となっている。これからも将来の目標を持たせるように指導していきたい。	B	①学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答（1年次）が95.5%であり当初の目標値を上回った。 ②2回目の道徳教育アンケートで、「自主自律」は98.7%、「理想の実現」は87.7%で、年度当初の目標は達成できたが、両項目とも「ほとんどできている」の回答は45.7%と35.8%と減少した。	A	①授業だけではなく、セトリーやLHRのアンケートなども含めてクロムブックを活用した授業が展開されているからと考えられる。先生方が授業の効率化だけではなく、「わかる授業」への取り組みとして実践してくださっているからであり、今後も使い方などを情報共有などをしながら、活用していきたい。 ②目標を達成することはできたが、「ほとんどできている」の回答が減少した。これは、進路学習などを通して、自己分析ができて、成績だけではなく、自分自身の性格や特性を考慮した進路選択に多少の不安が現れているからだと思われる。2年次では、さらに個に応じた進路指導ができるように担任だけではなく、進路、科、コースの特性を踏まえて、チームで対応していきたい。	妥当	適切
	2年次	学校内外の活動を通して進路意識の向上を図り、進路実現に向かって自ら学ぶ姿勢を養う。	・1人1台端末を活用した授業改善と活用方法の共有化（スケジュール管理など）を推進する。 ・生徒が主体的かつ目標を持って継続的に取り組む授業を目指す。（生徒が「わかる」授業、資格取得など授業外の学習を促す授業を実践） ・考査前・考査後の継続的な提出物指導・学習指導（学習実態調査を用いた個別面談含む）を徹底する。	①学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答（2年次）が90%以上。昨年度1年次94.9%。（年次独自のアンケート実施予定。） ②学校自己評価アンケート（生徒）の「家庭での学習時間を十分確保している」の肯定的回答（2年次）が70%以上。（昨年度2年次54.3%） ③考査前の学習実態調査（年次独自）で平日150分以上、休日210分以上の学習時間が確保できている。 （昨年度1年次　平日平均162分、休日平均192分）	①②学校自己評価アンケートは11月実施予定。 ③目標に対して、第1回考査前について平日が平均142分、休日が平均208分で、第2回考査前について平日が平均138分、休日が平均169分であった。特に第2回考査前の休日の学習時間が低い理由として、学習時間が30分以下の生徒が25名もいたことが大きな要因である。今後学習時間が少ない生徒には個別に声掛けをしたり、考査前に残して勉強させたりするなど年次で対応していきたい。中間期までの状況は1年次の平均よりも低い状況で、2学期以降、修学旅行や千町祭など大きな学校行事があるが、メリハリをもたせて計画的に学習に取り組ませ、行事後は進路実現に向けて切り替えて学習に取り組める環境を年次で整えていきたい。	C	①学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答（2年次）が94.2%であり当初の目標数値を上回った。 ②学校自己評価アンケート（生徒）の「定期考査や検定などに向けて勉強している」の肯定的回答（2年次）が84.8%であり当初の目標数値を上回った。 ③第1回考査前から第4回考査前までの平日が平均150.3分、休日が平均216.3分であった。 ②③については年次で目標にしていた「考査前・考査後の継続的な提出物指導・学習指導（学習実態調査を用いた個別面談含む）を徹底する。」を年次の先生方と連携してできた結果であると捉えている。	A	①ほとんどの授業でクロムブックやプロジェクターを活用した授業が実施されているからと考えられる。また、年次で行うアンケートや調査についてもフォームで実施している。一方で年次独自の学校生活アンケートでは学習に関して「考査で点数をとることができない」「内容が理解できない」「進度が速くてついていけない」「勉強方法が分からない」「ノートをうまくまとめることができない」「積極的に発言できない」のような意見を持っている生徒が複数いる。個々の生徒の回答や成績などの学習状況も大切に必要に応じて支援しながら、年次として今後も「生徒が主体的かつ目標を持って継続的に取り組む授業」を目指していきたい。 ②③全体としては目標数値を達成しているが生徒の中には十分でない生徒も見受けられる。3年次の進路実現に向けて、粘り強く継続した取組をしていきたい。	妥当	適切

令和5年度 岡山県立邑久高等学校 評価書　～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
2 コミュニケーション能力の向上・・・地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価 達成状況（中間）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	自己評価 達成状況（最終）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価 評価の妥当性	学校関係者評価 改善方策の適切さ
2	進路指導課	地域と連携したキャリア教育を推進する。	・総合的な探究の時間「セトリー」で、各科・コース・グループの特性に応じて、地域と連携した探究活動を実践する。 ・地域の方と連携した授業や進路行事を、年間計画の中で、効果的・継続的に実施する。 ・「セトリー」の活動を広く発信することで、地域の理解を図る。	①セトリー・アンケート（今年度改訂）の「地域への関心」及び「コミュニケーション」についての項目において、肯定的回答が実施前・実施後でそれぞれ7ポイント以上増加する。（昨年度「地域への関心」項目6.7ポイント増加） ②本校の「地域協力者リスト（SCTs=Setouchi Community Teachers）」への登録者が今年度10名以上増加する。（昨年度登録開始、現在25名） ③1月の実践報告会への来場者が50名以上になる。（昨年度38名）	①4月実施アンケートで、「地域への関心」と「コミュニケーション」の項目における肯定的回答が普通科で96.4%と100%、情報ビジネスコースで79.0%と83.7%、保育・食物コースで73.4%と90.0%であった。年度末にもアンケート実施予定。 ②今年度新たに5名登録（7月末時点）。このリストをもとに、8月22日に1年次生活ビジネス科を対象に地域インタビュー「聞き書き」を行う。 ③1年次普通科、生活ビジネス科、2年次情報ビジネスコース、保育・食物コースが展示、2年次普通科4グループ、3年次生活ビジネス科（課題研究）が全体会・分科会発表を行う見込み。	B	①実施後のアンケートで「地域への関心」と「コミュニケーション」の項目における肯定的回答が普通科で100%（+3.6）と100%（同、とても：53.3%→92.0%）、情報ビジネスコースで94.9%（+15.9）と97.3%（+13.6）、保育・食物コースで97.0%（+23.6）と93.9%（+3.9）と、いずれも向上した。 ②今年度10名登録に加え、「聞き書き」では地元企業の14名の方のご協力を頂くなど、複数回、継続的に関わってくださることも増え、生徒の学びを深めることに繋がっている。 ③実践報告会には外部から33名の方が来場した。今年度新たに、1年次生活ビジネス科「瀬戸内人物図鑑」「瀬戸内魅力かるた」作成、2年次情報ビジネスコース「瀬戸内魅力新聞」を行うことで、3年間を通して系統的な取組にすることができた。また、1年次普通科の「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」の取組は、環境省の「環境教育・ESD実践動画100選」に認定され、広く紹介できた。	B	①2年次の情報ビジネスコースのプログラムを改善したことと、保育・食物コースの交流会を対面で実施できたことで、生徒の地域への関心やコミュニケーション力をさらに向上させることができた。現在のアンケートは2年次が対象なので、1年次についても検討していく。 ②生徒の探究学習に教員とともに伴走していただき、フィードバックにまで関わっていただくことで、生徒のキャリアパスに繋がるとのご意見を頂いている。今後の各グループと地域との関わりについて今後も連携・調整を続けたい。 ③会場の収容力への懸念もあって、外部への広報を制限したため、今年度の外部からの参観者は想定よりも少ない人数にとどまった。広報の範囲や対象について、関係教員で協議し、本校の活動やその魅力が十分地域や中学校等に伝わるような広報や案内について検討する。	妥当	適切
	広報室	本校志願者130人以上を達成する。（進学状況調査1次=137、2次=133、特別=144／募集76、一般=64／募集44）	・ホームページのブログ、facebook、Instagramによるタイムリーな学校生活の様子の発信を継続的に行う。今年度はイベント的な内容ばかりにならないよう、特に授業や部活動、ボランティア活動など本校の生徒に特に頑張ってもらいたいことに重点をおいて発信する。 ・普通科、生活ビジネス科それぞれの特色を学校説明会、オープンスクール、邑久高通信などで分かりやすく伝える。	①HPブログ・インスタ・facebook年間300回以上更新。（昨年度HPブログ314回） ②邑久高通信を3回（学期に1回）以上発行。（昨年度1回） ③オープンスクール参加人数（中学3年生）が240名以上。（昨年度210名・2回） ④学校自己評価アンケート（生徒、保護者）の「邑久高校のホームページは充実している」の肯定的回答が生徒70%以上、保護者65%以上。（昨年度生徒65.5%、保護者58.2%）	①ブログ168回更新(9/8時点)。昨年度のこの時期（84回）と比べると、多くの先生方が魅力ある授業や部活動などの活動を意識的に発信しようとして下さっている。特にInstagramのいいねの数が増えた。後半はまだ取り上げていない教科の授業を載せていきたい。 ②邑久高通信3回（Vol.1、2、夏）発行し、夏号は広報せとうちに折込み予定 。第2回OSの時期に合わせて次号を計画中。 ③オープンスクールの中学生参加人数は第1回245名（中3：194名、中2：51名）、9/29時点の第2回の参加申込者は104名（中3：81名、中2：23名）であり、目標を上回る275名の参加が見込まれる。学校説明会は、6月時点で4回実施済みで、143名来場。11月にも3回実施予定。 ④学校自己評価アンケートは11月実施予定。	A	①ブログ308回更新（1/19時点）。目標の300回を超えた。授業公開週間などを使い、多くの教科の授業も載せることができた。 ②邑久高通信は5回（Vol.1、2、夏、3、4）発行し、OSや学校説明会等で配付できた。夏号は広報せとうちに折り込みもしていただいた。今後は3学期に1回発行予定。 ③OSの中学生参加人数は、第2回108名（中3：85名、中2：23名）であり、目標を上回る279名の参加があった。学校説明会は、11月に63名+9中学校の参加があり、昨年度に比べ約1.4倍の人数であった。②③いずれも東備学区の中学生が減少している中、増加が見られたことから岡山・倉敷市内からの参加が増えたことが分かる。 ④学校自己評価アンケートの結果は生徒65.3、保護者60.5と目標には達しなかったが、問い方を「ホームページ・Instagram・Facebook」とすると肯定的な意見が増えるのではないかと思う。回答の中の「全くそうは思わないという」を選択した人がゼロだったのは良かった。	B	・中学校卒業見込者の進学希望状況調査（第1次調査）では、普通科48名、生活ビジネス科80名の計128名であった。OSや学校説明会への参加は増えたものの、昨年度の普通科高倍率や普通科の学区変更・特別入試募集割合変更などもあり、様子を見ている生徒も多いかもしれない。重点目標に掲げた数値にはやや届かなかったが、両学科とも1.0倍を超えたことは良かった。 ・来年度以降もブログ等の運用を続けていくとともに、HPの情報更新にも力を入れたい。 ・「OSへ参加する中学3年生が240名以上」については昨年度まで2年連続で未達成であったが、今年度は達成できた。今までなかった中学校から学校説明会の依頼もあり、岡山市内の中学校からの関心が高かったことがわかる。	妥当	適切

令和5年度 岡山県立邑久高等学校 評価書　～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
2 コミュニケーション能力の向上・・・地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価 達成状況（中間）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	自己評価 達成状況（最終）	評価 A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価 評価の妥当性	学校関係者評価 改善方策の適切さ
3	生徒課	部活動や生徒会活動等の更なる推進と活動支援を行う。	・部活動顧問や1年次団教員と連携し、1年次生の部活動の入部率を上げる。また、コロナウイルス感染症対策にも引き続き配慮し、部活動が持続できる環境を整える。 ・生徒会執行部のリーダーシップのもと、生徒主体の委員会活動や学校行事の充実を図ると共に、活動の「見える化」に取り組む。	①「1年次生徒部活動加入率」が75%を上回る。（昨年度1年次73.9%） ②学校自己評価アンケート（生徒）の「部活動・生徒会活動（各種委員会活動を含む）が活発に行われている」の肯定的回答が前年を上回る。（昨年度89.4%）	①9月時点での1年次生部活動加入率は66.1%であり、ここ数年70%以上を推移していた加入率がやや下がっている。その半面、いくつかの部活動では県大会や中国大会へ出場するなど成果も残しており、積極的な取組がみられる。後期は大きな学校行事も控えているので、広報と連携した「見える化」を引き続き行いながら、校内外に向けて部活動や生徒会活動など、生徒の生き生きとした活動を発信していきたい。 ②学校自己評価アンケートは11月実施予定。	B	①1年次生の入部率は66.1.%であった。「75%を上回る」という今年度の目標には及ばなかったものの、県大会出場等の成果を残す部も増えており、活動内容は充実してきている。 ②「学校自己評価」の「部活動や生徒会活動は活発に行われている」の項目では、生徒の91.9%が肯定的な回答をしており、昨年の89.4%（一昨年87%）を上回っている。教員も85.8%が肯定的な回答をしており（昨年84.8%、一昨年79%）、部活動を中心とした生徒会組織が年々活性化しつつあると感じる。 　活動の「見える化」については、掲示板やポスターを有効活用したり、SNSを通して、積極的に情報発信を行った。	B	①入部率は高くないが、きちんと活動できている部活動の数が増えたことで結果が残った。各種委員会を含む生徒会活動の更なる活性化が望まれており、生徒をどう巻き込んで主体性を発揮させるかが課題となる。 ②今後も部活動、委員会活動、ボランティア活動などあらゆる場面において、活動の「見える化」を促進していきたい。生徒が互いの活動を目にする機会を増やすことで、他者から良い刺激を受け、自分の活動にやりがいや誇りが持てるような仕組みをつくっていきたい。	妥当	適切
	3年次	生徒が納得する進路を実現する。	・年次独自の進路検討会を開催するなど、情報の共有を図り、年次全体で生徒の支援を行う体制を作る。 ・幅広い進路に対応するために、セトリーを活用した進路指導を推進する。 ・大学の発表会など校外への行事に積極的に参加させる。 ・年次集会や夢育講演会を活用し、進路実現に向けて意識を高める。	①年次の最終アンケートで進路の満足度について肯定的回答が90%以上。（昨年度95%） ②学校自己評価アンケート（生徒）の「進路に関する学習（進路ガイダンス、セトリーや進路講座など）は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答が90%以上。（昨年度90%） ③国公立を除く進路希望が2月段階で95%達成できている。	年次集会や講演会を活用して進路実現に向けての意識を高めることができている。また、年次会議で生徒の進路について共通認識を持ちクラスを越えて面接指導などを行っている。また、セトリーや放課後の時間を使って生徒の面談をこまめに行い対応することができている。就職試験の結果多くの生徒が合格することができたが、残念ながら不合格になった生徒もいるため、合格に向けて情報共有を行い年次全体で対応していきたい。①②③学校自己評価アンケートは11月実施予定。	B	①進路の満足度についての肯定的回答は98%であった。 ②学校自己評価アンケート（生徒）の「進路に関する学習（進路ガイダンス、セトリー）」は、「進路を考えるのに役立ている」の肯定的回答が97%であった。 ③1月末時点で進路がまだ決定していない生徒が12名いる。そのうち10名は進学希望であり、2月以降に受検予定である。2名は来年度以降進路決定を目指すとしており、98%は進路の見通しが立っている状況である。	A	新学科2期生となる生徒であったが、年間を通して担任を中心にきめ細かく、進路指導を継続していった結果、多くの生徒が希望の進路に合格することができた。学科の特色に沿った進路希望も多く、生徒のニーズに沿った進路指導ができたと感じている。今後受験する生徒に対しても最後まで納得できる進路実現に向けて支援していきたい。	妥当	適切
	教育相談室	生徒一人一人の成長援助に視点を据えた活動を行う。	・各学期に1回実施している「生活アンケート」の項目を学校行事との関連を図ったり、各課と連携し、より効果的な内容にする。 ・「生活アンケート」実施後は担任、学年主任、係で情報共有し、SC・SSWと連携して生徒支援にあたる。 ・生徒理解のための教員研修を行う。	①実施時期に応じた「生活アンケート」になるよう項目を年次や各課と連携して見直しができている。（アンケート実施の2週間前までに） ②学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答が95%以上。（昨年度は90%）	①1学期の「生活アンケート」については実施後各学年・担任で分析し、対応できた。2学期以降も実施時期に応じた、効果的なアンケートにしていく。必要があればSC,SSWと連携していく。 ②5月中旬に教員研修を行った。次年度以降もこの時期に必要性を感じる研修を行っていきたい。	B	①「生活アンケート」については各学年ごとに実施後分析し、対応できた。面談等でフォローすることで問題発見、早期の対応に資する取組になった。しかし、各課との連携は不十分であった。 ②学校自己評価アンケート（生徒）の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答は90%で昨年度とほぼ同じであった。	B	①来年度以降も実施後の対応を大切にしながら、必要に応じて実施時期を考慮した質問、各課と連携した内容を考えていく必要がある。 ②SC、SSWは十分に活用できたが、SCは枠が決まっているため、SSWを柔軟に活用したい。ケース会議も必要に応じて開催し、多くの関係者で情報共有を今後も進めていく必要がある。	妥当	適切